

「このとり5号機」

八月十九日、「このとり5号機」が打ち上げられ、二十四日、国際宇宙ステーション（ISS）とのドッキングに成功しました。

「このとり」の役割は、ISSに、必要な物資を輸送することです。二〇一一年に、それまで物資輸送の役割をしていたスペースシャトルが退役。退役後、NASA（アメリカ航空宇宙局）は、外部委託することに、主としてNASAから委託された米国の民間企業が無人宇宙補給機を打ち上げてきました。しかし、最近では、昨年十月、今年四月、2回打ち上げられましたがいずれも打ち上げ直後にロケットが爆発し、失敗。この2度の打ち上げでは、千葉工大の流星観測力メラが積みこまれていましたが、この失敗で貴重な力メラも失われてしまいました。この米国の失敗の他に、今年七月に打ち上げられたロシア船も、打ち上げ後制御不能になっていました。

そんな状況の中で、我が「このとり」が活躍を続けてきました。二〇〇九年九月十一日、「このとり1号機」がISSに16.955トンの荷物を運ぶのに成功。続いて二〇一一年一月二十二日、2号機、二〇一二年七月二十一日、3号機、二〇一三年八月四日、4号機の打ち上げに成功、役割を果たしました。そして今年八月十九日、種子島宇宙センターから宇宙飛行士の水や食料、生活物資、実験装置など約5.5トンを積み込んだ無人補給船「このとり5号機」が、官民挙げて開発したH-II Bロケットによって打ち上げられました。二十四日、「このとり5号機」は、油井亀美也宇宙飛行士が操作するロボットアームにキャッチされ、ドッキングに成功しました。

小惑星探査機「はやぶさ2」、そして無人補給船「このとり5号機」の打ち上げ成功。私は、科学技術担当副大臣として、これらの打ち上げに立ち会い、日本の宇宙技術、科学技術の素晴らしさを目の当たりにすることができたのは、本当に幸いなことでした。

参議院議員 藤井基之

「ダメ。ゼッタイ。」

麻薬・覚せい剤乱用防止センター

専務理事 阿部 俊三



「ダメ。ゼッタイ。」お聞きになったことがあると思いますが、薬物乱用防止活動のキャッチフレーズです。この活動に足を踏み入れて、30年になります。私は、もともとは、映画監督をしていましたが、厚生労働省に縁があって、薬物乱用防止活動をするようになりました。まず、最初に、薬物乱用防止を推進するのに、一番重要なことは、薬物乱用に染まってしまった人、乱用者に、薬物乱用防止を呼び掛けても薬物乱用問題の解決にはならないということを認識しました。当時、政府広報で「覚せい剤やめませんか！それとも人間やめませんか？」という標語が流れていました。まさに、薬物乱用者をターゲットにしたものだったと考えられます。私は、薬物乱用防止を啓発推進するためには、薬物乱用を一度でもやらないこと、一度でも薬物に手を染めてしまつと、大切な脳に影響を及ぼし、脳が侵され、人間失格になってしまうこと、同時に、薬物には依存性という性質があり、一旦、薬物乱用に手を染めると、自分の意思では、やめられないということを啓発することであると考えました。このことから、まず、薬物に手を染めていない人々を対象に、啓発活動をするための標語を創りました。それが、薬物乱用は、「ダメ。ゼッタイ。」だったので。

この誕生には、一流の広告代理店の優秀なクリエイターが一週間かけて創出したものです。薬物乱用と言えば、麻薬・覚せい剤といったヤクザを想定する恐ろしいものと思つていきますので、その防止活動の標語をと考えて、乱用者をターゲットに想定したので、100以上のキャッチコピーが提出されましたが、すべて、不採用にしました。最後に、これで「もうダメですかと？」念を押しました。そこで、ス tapp が「もうダメです。」と答えたので、これでどうですか？優秀な皆さんを納得させた言葉「ダメ。ゼッタイ。」が誕生しました。これほど説得力のある表現はないと考え決定しました。おかあさんがこどもに、「ダメよ。そんなことは」「こどもが、おかあさんに、「これダメ？」といった相互に愛情のこもった会話がなされます。使う人によって、その有効性が発揮できます。

また、それとともに、「愛する自分を大切に」と副産物も生まれました。

今、危険ドラッグの乱用が広がっています。薬物乱用は一度でも「ダメ。ゼッタイ。」愛する自分を大切に「薬物乱用のない社会環境づくりに参加しましょう。」

会員投稿

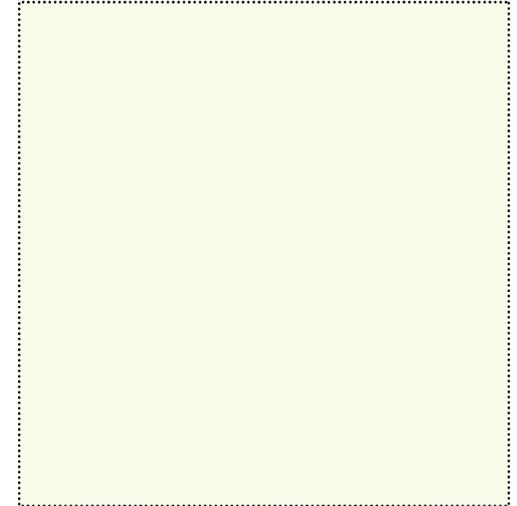
「たかが化粧品・・・」

日本コスメティック協会 伊東和子

&

%

\$



HP

<http://www.fujii.tv/>

